



広報

つがる

2008
7月号
No.79

市の人口と世帯数(平成20年7月1日現在)人口38,540人(男18,388人・女20,152人)世帯数13,381世帯



小舟を操りジュンサイの摘み取り

木造平滝地区で初夏の訪れを告げるジュンサイの収穫が始まっています。水面は、淡い緑色で埋め尽くされ、農家が若芽を丁寧に摘み取っていました。収穫作業は7月下旬まで続くそうです。



第4回つがる市消防団定期観閲式

6月22日、第4回つがる市消防団定期観閲式が市役所前で行なわれ、消防団員が日頃から行っている防火・防災訓練の成果を観閲者に披露し、服装、分列行進、機械器具点検等の審査が行われました。

現在、つがる市消防団は57分団、消防ポンプ車等82台が配備され、1450人の団員が消火栓や消防ポンプの管理、消火訓練等を行いながら、まさかの災害に備えています。

観閲式では団員の視閲点検、ポンプ車両の機械器具点検、分列行進等が行われた後、会場をかつば広場の古田川河畔に移し、玉落競技が開催されました。また、柏第一保育所の園児らによる幼年消防クラブの機械器具点検と放水訓練が披露され、将来の勇敢な消防士ぶりをアピールしていました。

式典では、殉職消防団員へ黙祷を捧げ、表彰伝達並びに授与式が行われ、203人の団員が各表彰を受賞、消防庁長官表彰には、二川原一副団長（車力）、梶浦堅分団長（車力）の2人と（株）箱田住宅工業（柏）の1事業所に、青山副知事から伝達されました。

観閲式での成績結果は、柏大隊が日頃の訓練の成果と安定した力で総合優勝を果たし、見事9連覇を成し遂げました。



連携のとれた放水をする幼年消防クラブ

【観閲式成績】

総合優勝 柏大隊(339点)
 第2位 稲垣大隊(309点)
 第3位 木造第3大隊(307点)
 ○特別賞 航空自衛隊車力分屯基地21高射隊

【玉落競技成績】

○50馬力以下
 稲垣第5分団第1部(沼館)25秒18
 ○51馬力から85馬力まで
 木造第9分団第1部(兼館)42秒78
 ○86馬力以上
 車力第3分団(牛潟) 14秒49



特別賞の航空自衛隊車力分屯基地21高射隊

水を被りながらの白熱した玉落競技





山林が「ごみ」で埋まる？ 深刻な不法投棄問題

わたしたちは、自分たちが排出してきた大量のごみを前に、行動の選択を迫られています。市はモノを捨てない「資源循環型社会」の形成に取り組んでいます。わたしたちのモラルが問われます。

日常生活から生まれる、空き缶、空き瓶、古紙、ペットボトルをごみではなく資源として再利用するための分別回収活動は市でも進んでいます。

「資源循環型社会」の実現には、ごみの発生抑制（Reduce）、再利用（Reuse）、再生利用（Recycle）の3Rを推進し、廃棄物の適正処理の確保が重要とされています。その確保を妨げる不法投棄問題は、早急に解決しなければいけない課題となっています。

不法投棄問題を解決する手立てとしてはまず、地域、学校や企業等の仲間と一緒にリサイクルやリユースに取り組むことが必要です。例えば、古着、家具、家電製品など、いらなくなった生活用品を他の人たちと積極的に交換したり、バザーや交換会を開催することも必要ではないでしょうか。

市では、不法投棄防止対策として地域住民と協力しながら、クリーン活動、不法投棄防止の看板や監視カメラの設置等、監視活動を強化しているところですが、一向に不法投棄は減少して

ません。

多くの市民は、「資源循環型社会」を構築するためにごみの減量化を心がけ、適正なごみ処理を行っています。一部の人々の心ない人たちの不法投棄により、自然環境も破壊されています。

行政としては、この不法投棄を見逃すことは出来ないため、今以上に巡回パトロールを強化し、不法投棄を発見した時は、投棄者の特定に努めるとともに二度と不法投棄を行わないように指導し、場合によっては警察に通報することとしています。

不法投棄は犯罪行為です。行政と市民が連携を図り、自分たちの故郷を不法投棄のない美しく住みよいまちにしていきましょう。



不法投棄監視カメラ